

1 派遣期日 平成28年11月12日（土）

2 研修先 学校名 筑波大学附属中学校
所在地 東京都文京区大塚1丁目9-1
<http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/wp/>

3 研修内容

（1）研修選定の理由

本校の保健体育科の研究主題は、「生徒一人一人が進んで運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上を図る指導の在り方」である。生徒は自分の興味や関心があることについては、積極的に授業に参加しようとする姿が見られるが、興味や関心のないことに関しては、受け身で消極的な態度になってしまう。そこで、まず、発問や指示の工夫を行うことによって生徒の考えや自主的な判断を促し、授業へ積極的に参加出来るようにすること。そして、学習したことを振り返り、仲間と関わり合いながら学習課題の解決に向け、互いに考えを発表し合うこと。これらの学習を活動を通して、理解を深めながら、できる喜びを味わわせる授業を作り上げてゆくことにより、学習内容が確実に定着するのではないかと考えた。筑波大学附属中学校では、「生徒の思考力・判断力・表現力の向上を支える豊かな言語活動」をテーマに授業実践を行っており、生徒・教師の両方が言語活動の充実を図ることで、本校の研究主題を解決できるのではないかと考え、選定した。

（2）筑波大学附属中学校保健体育科の実践事例

筑波大学附属中学校の保健体育科では、「確かな学力」の考え方を踏まえ、「生きる力の育成」は①主体的課題解決能力、②健康と体力、③豊かな人間性の3つの構成要素を育成することによって高めることができると捉え、この視点に立って学習内容を精選し、多様な授業実践を行うことを目指している。

（3）公開授業参観

○单元名 保健「がん教育」

○本時の授業 「生と性を考える～生命の連続性を阻むもの～ Season II がんを考える」

○单元計画

- 1：がんを知る ～がんとは何か？（がんとは・がんの発生・がん治療の可能性）
- 2：がんと闘う ～治療法を考える（がんの治療法・三大療法・先進医療）
- 3：がんを防ぐ ～がんを予防する（がんの予防と生活習慣・がん検診の重要性）

○本時のねらい（2／3）

- ・ブレインストーミングを通して、自分の知識の整理を行おう。
- ・がんの治療には三大医療と先進医療という様々な方法があることを理解する。
- ・がんの治療法にはそれぞれメリット・デメリットがあることを知る。
- ・話し合い活動を通して、様々な考えを知り、理解しようとする。
- ・がんの治療法には選択肢があることを知る。

○展開

1 ブレインストーミングを用いて、がんの治療法を考える。

①考える その1：治療法を考える

②考える その2：治療法のメリット・デメリットを考える。

③考える その3：考えた治療法のメリット・デメリットを整理する。

2 がんの三大療法と先進医療について知る。

①考える その1：ロールプレイングを通して、治療法のメリット・デメリットについて考える。

○まとめ

1 議論の結果、自分が選択する治療法に挙手させる。

2 治療法には選択肢があることを知る。

3 がんにかからないように予防するという視点を考える。

4 感想

今回の研修で2つのことを学ぶことができた。

1つ目はブレインストーミングの導入である。この技法を用いることで、日頃活発な生徒だけでなく、消極的な生徒や比較的考えることが苦手な生徒も自分を発揮し、積極的に授業に参加することが容易となる。このような授業は、生徒にとって何よりも楽しく、教室全体が活発な雰囲気包まれ、さらに学習意欲を高められる。実施に当たっては、①自由な発想で自由に思考し、短く発言する。②出されたアイデアについて、その場で互いに良い悪いを言わない。③一定の時間内にできる限り多くの量のアイデアを出す。④出されたアイデアを手がかりに新たなアイデアに発展させるのも良い。以上の簡単なルールを守って行うことが重要である。

2つ目は聞く力である。言語活動の充実を図っても、教師の説明や友人の話をきちんと聞き、何を話し合うのが明確に理解できないと、本時の授業の学習課題を解決してゆくことはできない。本校でも保健体育の授業はもちろんのこと、学校全体で「聞く力」を養う必要があると痛感させられた。

今回の研修で学んだことを生かし、今後の授業では、学習課題を明確に伝えとともに、発問や指示の工夫等、教師自身も言語活動の充実を図り、生徒が主体的に取り組める授業作りを行っていききたい。

最後に、今回このような研修の機会をいただいたことに、感謝申し上げたい。